

社会科 学習指導案

公開学級 第2学年 2組 (27人)

場所 南舎3階 2年2組教室

授業者 河合 鴻之介

1 単元名

中部地方—活発な産業を支える人々の暮らし—

2 本時のねらい

昼神温泉が衰退しているのにも関わらず、全体の観光客数が増えている理由を追究する活動を通して、阿智村にしかない地理的な特色を活かし、様々なサービスを提供することで観光産業を活性化し、持続可能な阿智村を目指すとしている人々の工夫や努力を考察することができる。(思考・判断・表現)

3 本時の展開 (4/6)

過程	学習内容	研究に関わる手立て
導入	<p>1 阿智村について知る。 地図や写真資料を見て、阿智村の位置や様子を確認する。</p> <p>2 阿智村の観光客数の推移のグラフをみて、学習課題をつくる。</p>	<p>研究内容2—①</p> <p>「なぜ」を引き出す動機付けの工夫 ・昼神温泉や、阿智村全体の観光客数の推移を示したグラフを提示することで、昼神温泉の観光客数が減少しながらも、阿智村全体の観光客数が減少していない事実を提示する。</p>
展開	<p>3 課題について予想を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央高地は豊かな自然があるから、その自然を利用したのではないか。【自然環境】 これまでの町おこし・村おこしと同様に SNS を利用して宣伝したのではないか。【交通・通信】 人々が行きたいと思えるような、大きなイベントを開催したのではないか。【人々の工夫や努力】 <p>4 追究活動を行う。</p>	<p>研究内容2—②</p> <p>自己調整を促す手立ての工夫 ・追究活動では、自分の予想を基に、資料、既習内容、タブレット等自由に解決方法を選択して自分の考えをもつことができるように促す。 ・単元を通して、「自然環境」「交通・通信」「人々の工夫や努力」の視点で、各地の産業の特色を追究できるように視点を整理する。 ・個別追究後に、ペアでの交流を実施することで、自分の考えを深めたり、新たな視点で考えたりして自分の考えを調整できるようにする。</p>
自己調整	<p>【自然環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2006年に環境省から「星の観察に適していた場所」の全国1位に認定される。 ○名古屋や東京からの都市圏からも近い <p>【交通・通信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外部の企業と協力したり、SNSを利用して「ナイトツアー」の宣伝を行った。 ○高速道路等の交通網も整備されている。 <p>【人々の工夫や努力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○阿智村にしかない日本一の星空をブランド化し、「ナイトツアー」を企画して、若い世代の人向けの催しを行っている。 ○地元住民に阿智村に愛着や誇りをもってもらうことで村民の自発的活動を促進することができる。 	<p>研究内容2—③</p> <p>自己の変容を実感するための工夫 ・本時のまとめでは、「○○さんの意見を聞いて～だと改めて感じた。」「○○さんの意見を聞いて、～と考えるようになった」と書くように指導し、生徒が自分の考えの深まりを実感することができるようにする。</p>
終末	<p>4 全体交流を行う。</p> <p>5 株式会社阿智昼神観光局代表取締役社長白澤裕次さんのインタビューを見て、20年後、阿智村が存続し続けるために必要なことは何かを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 阿智村にしかない魅力を生かしながら、今ある産業をさらに活性化して、地域住民が住み続けたいと思う街をつくること。 <p>6 本時のまとめを書く。</p>	<p>評価規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本一の星空」などの「阿智村にしかない地理的特色(魅力)」を生かした観光業を行っていることを捉えている。 ・交通網が発達しており、阿智村が観光しやすい位置にあることや、通信網の発達により阿智村の魅力が広がりやすくなったことを捉えている。 ・阿智村の魅力をブランド化し、様々な催しを計画していることを捉える中で、地域住民が自分の住んでいる地域に「誇りや愛情」を持つことが大切であることを捉えている。(思考・判断・表現)
自己の変容を実感	<p>本時のまとめ</p> <p>「阿智村にしかない」豊かな自然等の特色をブランド化し、多くの人々に魅力を伝えていくことで、多くの観光客を呼び込むことに成功したのだと思う。また、○○さんの多くの人に阿智村を知ってもらうために、SNSで宣伝したり、様々な催しを行っているという意見を聞いて、ただ、自然の特色を活かすのではなく、多くの人に阿智村に來たいと思ってもらうために、様々な工夫や努力をしたりしているのだと分かった。</p>	

終末 第5-6時

今後の揖斐川町を支える産業は何か？

- ・揖斐川町にしかない地理的特色という視点から、今後の揖斐川町を活性化していくための方法を発信することができる。
- ・揖斐川町にしかない地域的特色を探究する活動を通して、改めて揖斐川町の魅力に触れることができる。

終末時の手立て

- ・今後の揖斐川町を支える産業をこれまでの学習を生かしながら「自然環境」「交通・通信」「人々の工夫や努力」の視点で考えるようにする。
- ・「揖斐川町出身の先生に提案する」という活動を位置づけ、より「自分事」として考えられるようにする。

展開 第2時-第4時

第4時 長野県阿智村の観光業【本時】

阿智村全体の観光客数が衰退せずに維持しているのはなぜか。

第3時 新潟県燕市の地場産業・農業

新潟県燕市では、どのような産業がさかんに行われているだろう。

- ・燕市では、雪が多い気候の特色を通して、農家の副業として洋食器などの金属製品の生産が発達してきたこと、現在ではその技術を活かして高品質のアウトドア用品を生み出すなど工夫と努力を続けていることを理解できる。

第2時 愛知県豊田市の工業

愛知県豊田市では、どのような産業がさかんに行われているだろう。

- ・豊田市では、高速道路網や海上交通の結びつきにより、他地域とかかわり合いながら自動車産業を発展させてきたこと、生産だけでなく新しい自動車の研究や開発への工夫や努力を続けていることを理解できる。

学習後の生徒の姿 (調整型自力解決)

中部地方ではそれぞれ、特色ある環境を生かした産業が盛んな地域である。特に観光業に関しては、その地域にしかない地理的特色を「ブランド化」し、その良さを知ってもらうための工夫や努力を行ったことで多くの観光客を呼ぶことができるようになったことが分かった。まずは私たちが揖斐川町にしかない魅力を深く知っていきたいと思った。

社会科における調整型自力解決

- 課題を「自分事」として捉え、自分なりの解決方法を選択して追究し、根拠を明らかにしながら自分の考えをもつことができる力。
- 社会的事象について、様々な立場や視点から考え、仲間の意見を踏まえながら自分なりの納得解を導き出すことができる力。

単元の課題

中部地方では、なぜ各地に個性豊かな産業が発達しているだろう

導入 第1時 中部地方をながめて

中部地方にはどのような特色があるのだろう

- ・中部地方は大きく東海・北陸・中央高地の3つに分けられ、それぞれ自然環境が異なることを理解することができる。
- ・地域によって発展している産業が異なることに興味をもつことができる。

導入時の手立て

東海・北陸・中央高地でそれぞれ盛んに生産されるものを写真や実物で提示することで、生徒が「なぜ、同じ中部地方でこれだけ生産されるものが異なるのか」という疑問をもつことで、単元の見通しをもつことができるようにする。

Unit を通した手立て

- ・単元を通して、「自然環境」「交通・通信」「人々の工夫や努力」の視点で課題追究することで、生徒の予想や資料の読み取り活動において見通しをもつことができるようにする
- ・追究活動の際は、自分の予想を基に、タブレットや、教科書、既習内容等何を使っても良いことを伝える。

